

資 源 開 発

教 授 難 波 恒 雄
助 教 授 服 部 征 雄
助 手 御 影 雅 幸
文部技官 垣 内 信 子

◆ 著 書

- 1) 難波恒雄, 服部征雄: コルヒチンの歴史, 「治療の歴史断章」治療学編集委員会編, 175—185, ライフ・サイエンス出版社, 1986.
- 2) 難波恒雄: 矢毒の文化——植物毒の利用と薬への道, 「薬草毒草300」朝日新聞社編, 4—12, 朝日新聞社, 1986.
- 3) 難波恒雄, 松繁克道共著: 「カラーブックス健康食品入門」保育社, 1986.
- 4) 難波恒雄, 服部征雄: バイオテクノロジーを応用した和漢薬生産, 「ニューバイオテクノロジーの行政施策と先端研究・実用化技術」山尾俊晴編, 483—491, 総合技術センター, 1986.
- 5) 難波恒雄共編著: 「動物成分利用集成, 水産・蛇・昆虫・漢方薬篇」R & Dプランニング社, 1986.

◆ 原 著

- 1) Hattori M., Endo Y., Takebe S., Kobashi K., Fukasaku N. and Namba T.: Metabolism of magnolol from Magnoliae Cortex, II, Absorption, metabolism and excretion of [ring-¹⁴C] magnolol in rats. Chem. Pharm. Bull. **34**: 158—167, 1986.
- 2) Tomimori T., Miyaichi Y., Imoto Y., Kizu H. and Namba T.: Studies on the Nepalese Crude Drugs, VI, On the Flavonoid Constituents of the Root of *Scutellaria discolor* COLEBR. (2). Chem. Pharm. Bull. **34**: 406—408, 1986.
- 3) Kakiuchi N., Hattori M., Nishizawa M., Yamagishi T., Okuda T. and Namba T.: Studies on dental caries prevention by traditional medicines, VIII, Inhibitory effect of various tannins on glucan synthesis by glucosyltransferase from *Streptococcus mutans*. Chem. Pharm. Bull. **34**: 720—725, 1986.
- 4) Namba T., Matsushige K., Morita T. and Tanaka O.: Saponins of Plants of *Panax* Species Collected in Central Nepal and Their Chemotaxonomical Significance, I. Chem. Pharm. Bull. **34**: 730—738, 1986.
- 5) 難波恒雄, 小松かつ子, 小野淳子, 鳴橋直弘, 御影雅幸: 「覆盆子」の生薬学的研究 (第1報), 韓

国産「覆盆子」の基源(I), 生薬 **40**: 44—53, 1986.

6) 難波恒雄, 小松かつ子, 御影雅幸: 「覆盆子」の生薬学的研究 (第2報), *Rubus coreanus* Miq. の成長に伴う果実, がくおよび花柄の形態変化ならびに本種に由来する韓国産「覆盆子」の成熟度, 生薬 **40**: 54—60, 1986.

7) 難波恒雄, 小松かつ子, 御影雅幸: 「覆盆子」の生薬学的研究 (第3報), 韓国産「覆盆子」の基源(II), 生薬 **40**: 95—102, 1986.

8) Akao T., Akao T., Hattori M., Namba T. and Kobashi K.: 3β -Hydroxysteroid dehydrogenase of *Ruminococcus* sp. from human intestinal bacteria. J. Biochem. **99**: 1425—1431, 1986.

9) Park J.H., Mikage M. and Namba T.: Studies on the Crude Drug from Korea (4), On the Chinese Crude Drug “Qian cao” (茜草), Shoyakugaku Zasshi **40**: 143—151, 1986.

10) 小松かつ子, 御影雅幸, 難波恒雄: 「覆盆子」の生薬学的研究 (第4報), *Rubus crataegifolius* BUNGE の果実, がくおよび花柄の形態変異, 生薬 **40**: 203—214, 1986.

11) 難波恒雄, 朴 鍾喜, 御影雅幸: 韓国産生薬の研究 (第5報), 漢薬「秦艽」について, 生薬 **40**: 224—232, 1986.

12) Lin C.-C., Yang C.-C. and Namba T.: Development of Natural Crude Drug Resources from Taiwan (III), Pharmacognostical Studies on the Crude Drug “Fua-gio-chhau” (化石草). Shoyakugaku Zasshi **40**: 233—240, 1986.

13) Hattori M., Hada S., Watahiki A., Ihara H., Shu Y.-Z., Kakiuchi N. and Namba T.: Studies on dental caries prevention by traditional medicines, X, Antibacterial action of phenolic components from mace against *Streptococcus mutans*. Chem. Pharm. Bull. **34**: 3885—3893, 1986.

14) 朴 鍾喜, 御影雅幸, 難波恒雄: 韓国産生薬の研究 (第6報), 民間薬「Och Na Mu Ggeob Jil」について, 生薬 **40**: 295—305, 1986.

15) 難波恒雄, 御影雅幸, 舒 躍中, 徐 国鈞: 日本民間薬の生薬学的研究 (第7報), 「高遠草」について, 生薬 **40**: 306—316, 1986.

16) 難波恒雄, 服部征雄, 葉 加南, 馬 永華, 野村靖幸, 金子周司, 北村佳久, 小泉 保, 片山和憲, 盧 煒: 杜仲葉の研究(I), 水抽出画分の一般薬理作用, 和漢医薬学会誌 **3**: 89—97, 1986.

17) 馬 永華, 垣内信子, 服部征雄, 寺沢捷年, 平手純司, 加藤義輝, 堀越 勇, 深作 昇, 難波恒雄: 厚朴成分 magnolol の代謝研究, III, [ring-¹⁴C] magnolol 投与ラットの全身オートラジオグラフィについて. 和漢医薬学会誌 3: 129—135, 1986.

18) Lin C.-C., Chen J.-Y. and Namba T.: Development of Natural Crude Drug Resources from Taiwan (IV), Pharmacognostical Studies on the Chinese Crude Drug "Han-lian-cao" (旱蓮草). Shoyakugaku Zasshi 40: 247—251, 1986.

19) Hattori M., Miyachi K., Shu Y.-Z., Kakiuchi N. and Namba T.: Studies on dental caries prevention by traditional medicines, IX, Potent antibacterial action of coumarin derivatives from licorice roots against *Streptococcus mutans*. Shoyakugaku Zasshi 40: 281—288, 1986.

20) 田沢賢次, 山本克弥, 霜田光義, 広川慎一郎, 真保 俊, 藤巻雅夫, Upali Pilapitiya, 難波恒雄, 村井忠司: クシャラ・スートラーその試みと成績について一. アーユルヴェーダ研究 16: 1693—1699, 1986.

◆ 学会報告

1) 難波恒雄, 釘貫ふじ, 御影雅幸: 日本民間薬の生薬学的研究 (第14報), 「ジャクナゲ葉」について. 日本薬学会106年会, 1986, 4, 千葉.

2) 難波恒雄, 御影雅幸, 高野昭人: 「蒲公英」の生薬学的研究 (第4報), 台湾産「蒲公英」について (その2). 日本薬学会106年会, 1986, 4, 千葉.

3) 難波恒雄, 御影雅幸, 小松かつ子, 徐 国鈞, 徐 珞珊: 金銀花の生薬学的研究 (第1報), 中国産 *Lonicera* 属植物数種の内部構造. 日本薬学会106年会, 1986, 4, 千葉.

4) 難波恒雄, 李 奉柱, 朴 鍾喜, 御影雅幸: 韓国産生薬の研究 (第5報), 民間薬「Jad Na Mu Ip」について. 日本薬学会106年会, 1986, 4, 千葉.

5) 宮一諭起範, 神 久徳, 山本 勝, 富森 毅, 御影雅幸, 難波恒雄: コガネバナの根の生長に及ぼす摘心の影響—収量, 形態, フラボノイド含量. 日本薬学会106年会, 1986, 4, 千葉.

6) 難波恒雄, 服部征雄, 葉 加南, 野村靖幸, 金子周司, 北村佳久, 小泉 保, 片山和憲, 盧 煒: 日本産杜仲葉抽出画分の降圧, 利尿および中枢抑制作用に関する薬理学的研究. 日本薬学会106年会, 1986, 4, 千葉.

7) 難波恒雄, 服部征雄, 舒 躍中, 石毛 敦, 杉本 晃, 関口協二, 油田正樹, 細谷英吉: 腸内細菌による和漢薬成分の代謝 (第10報), 芍薬成分

Paeoniflorin 代謝物の薬理作用. 日本薬学会106年会, 1986, 4, 千葉.

8) 難波恒雄, 服部征雄, 垣内信子, 馬 永華, 寺沢捷年, 堀越 勇, 平手純司, 加藤義輝: 厚朴成分 Magnolol のラット臓器における分布と代謝. 日本薬学会106年会, 1986, 4, 千葉.

9) スミトラ・ハダ, 垣内信子, 服部征雄, 難波恒雄, 木内文之, 津田喜典: 和漢薬によるウ蝕予防 (第6報)—直鎖脂肪酸および直鎖アルコール類の抗 *Streptococcus mutans* 作用一. 日本薬学会106年会, 1986, 4, 千葉.

10) 難波恒雄, 宮地久美, 垣内信子, 服部征雄: 和漢薬によるウ蝕予防 (第5報)—甘草中に含まれる抗ブラーク成分について一. 日本薬学会106年会, 1986, 4, 千葉.

11) 垣内信子, 黄 聖倫, 葉 加南, 服部征雄, 難波恒雄: 逆転写酵素阻害性を有する生薬成分(III)—抗癌生薬のスクリーニング—. 日本薬学会106年会, 1986, 4, 千葉.

12) 赤尾泰子, 赤尾光昭, 小橋恭一, 服部征雄, 難波恒雄: ヒト腸内菌 *Ruminococcus* の β -ヒドロキシステロイド デヒドロゲナーゼ. 日本薬学会106年会, 1986, 4, 千葉.

13) 服部征雄, 難波恒雄: Dental caries prevention by traditional medicines, Effects of crude drug extracts on growth and adherence of *Streptococcus mutans*. 中華民国第二屆, 世界中国医薬學術大会, 國際針灸検討会連合大会, 1986, 5, 台北.

14) 舒 躍中, 服部征雄, 難波恒雄, 壬生京子, 赤尾光昭, 小橋恭一: 腸内細菌による和漢薬成分の代謝と薬効発現—芍薬成分 paeoniflorin, albiflorin について—. 第6回天然薬物の開発と応用シンポジウム, 1986, 7, 名古屋.

15) 野村靖幸, 金子周司, 北村佳久, 東田道久, 難波恒雄, 服部征雄, 葉 加南: 杜仲葉水抽出画分のラット脳および心臓レセプター・アデニル酸シクラーゼ系への作用. 第3回和漢医薬学会, 1986, 8, 東京.

16) 服部征雄, 難波恒雄, 鏡森定信: 抗アレルギー作用を有する和漢薬の開発研究—和漢薬によるヒトリンパ球活性化作用の検討—. 和漢薬・バイオテクノロジー研究発表会, 1986, 9, 富山.

17) 森田 修, 垣内信子, 服部征雄, 難波恒雄, 高橋京子: 培養心筋細胞に対する和漢薬の作用(I), Coumarin 類の培養心筋細胞に対する作用について. 日本生薬学会第33回年会, 1986, 10, 埼玉.

18) 黄 聖倫, 垣内信子, 服部征雄, 難波恒雄,

高橋京子：培養心筋細胞に対する和漢薬の作用(II)，
—アドリアマイシンの心毒性に対する和漢薬の作用
について—。日本生薬学会第33回年会，1986，10，
埼玉。

19) 葉 加南，馬 永華，服部征雄，難波恒雄，
野村靖幸，倉茂洋一：杜仲葉エキス長期投与のラッ
ト肝組織への影響。日本生薬学会第33回年会，1986，
10，埼玉。

20) 王 璇，垣内信子，服部征雄，難波恒雄，奥
田拓男：タンニンと核酸の相互作用。日本生薬学会
第33回年会，1986，10，埼玉。

21) 舒 躍中，服部征雄，難波恒雄，小橋恭一，
影井克彦，福山恵一，月原富武：腸内細菌による和
漢薬成分の代謝(第12報)—Paeoniflorin 代謝物の
構造について—。日本生薬学会第33回年会，1986，
10，埼玉。

22) 田沢賢次，山本克弥，霜田光義，広川慎一
郎，藤巻雅夫，難波恒雄，Upali Pilapitiya：クシャ
ラ・スートラ—その試みと臨床成績について—Clinical
Study of Anal Fistula cured by Kshara Sutra，
アーユルヴェーダ研究会第8回研究総会，1986，11，
東京。

23) 田沢賢次，Upali Pilapitiya：痔瘻手術にお
けるインド伝統医学(アユルベダー)の今日的紹
介。第41回日本大腸肛門病学会，1986，11，京都。

24) 田沢賢次，藤巻雅夫，難波恒雄，Upali Pila-
pitiya：クシャラ・スートラによる痔瘻の治療—
インド伝統医学アーユルヴェーダの治療から—。第
41回日本大腸肛門病学会，1986，11，京都。

25) 山本克弥，霜田光義，広川慎一郎，真保
俊，田沢賢次，藤巻雅夫，Upali Pilapitiya，難波恒
雄：痔瘻における Ayurvedic treatment の経験。第
41回日本大腸肛門病学会，1986，11，京都。

26) 鶴居恂輔，宮地久美：飽和脂肪酸，不飽和
脂肪酸および不飽和アルコール類の抗 *Streptococcus*
mutans 作用。富山県家庭薬開発研究会シンポジウ
ム，1986，11，富山。

27) 小橋恭一，赤尾光昭，赤尾泰子，服部征雄，
難波恒雄：腸内菌による生薬成分の代謝。第7回理
研腸内フローラシンポジウム，1986，12，東京。

◆ その他

1) 難波恒雄，垣内信子，服部征雄：生薬分析シ
リーズ，LC/MS の最近の応用例について。
PHARM TECH JAPAN (ファームテクジャパン)
2(1)：31—39，1986。

2) 難波恒雄：麻子仁，薏苡仁。漢方製剤の知
識(III)：1—4，70—73，1986。

3) 難波恒雄：日本薬用植物誌(26) オキナグ
サ。和漢薬 393：1—2，1986。

4) 難波恒雄：日本薬用植物誌(27) カラマツソ
ウ。和漢薬 394：1—3，1986。

5) 難波恒雄：日本薬用植物誌(28) アケビ。
和漢薬 395：6—8，1986。

6) 難波恒雄：日本薬用植物誌(29) ムベ。和
漢薬 396：4—5，1986。

7) 難波恒雄：熊胆・肝臓病の良薬。『はいち』2：
2—3，1986。

8) 難波恒雄：日本薬用植物誌(30) オオツヅラ
フジ。和漢薬 398：6—9，1986。

9) 難波恒雄：日本薬用植物誌(31) アオツヅラ
フジ。和漢薬 399：6—8，1986。

10) 御影雅幸：ヒマラヤトレッキング(1)。和
漢薬 399：1—4，1986。

11) 難波恒雄，服部征雄：生薬分析シリーズ，固
定化酵素カラムを用いた高速液体クロマトグラフィー
による各種動物胆中の遊離型抱合型胆汁酸の一斉
分析。PHARM TECH JAPAN(ファームテクジャ
パン) 2(9)：35—43，1986。

12) 御影雅幸：和漢薬調査雑感。和漢薬
400：171—173，1986。

13) 服部征雄：有機化学と生化学の橋渡し。フ
ァルマシア 22(10)：1101，1986。

14) 難波恒雄：日本薬用植物誌(32) ナンテン。
和漢薬 401：1—3，1986。

15) 御影雅幸：ヒマラヤトレッキング(2)。和
漢薬 401：5—8，1986。

16) 難波恒雄：日本薬用植物誌(33) メギ。和
漢薬 402：1—3，1986。

17) 御影雅幸：ヒマラヤトレッキング(3)。和
漢薬 402：7—9，1986。

生 物 試 験

教 授 野 村 靖 幸
助 教 授 渡 邊 裕 司
助 手 金 子 周 司
文部技官 小 西 理 佐

◆ 原 著

1) Arima T., Samura N., Nomura Y. and
Segawa T.: Comparison of effects of tiapride and
sulpiride on D-1, D-2, D-3 and D-4 subtypes of
dopamine receptors in rat and bovine caudate
nucleus membranes; Jpn. J. Pharmacol. 41: